



各位

2026年10月19日

会社名 株式会社トリプルアイズ
代表者名 代表取締役CEO 片渕 博哉
(コード番号：5026 東証グロース)
問い合わせ先 TEL. 03-3526-2201

トリプルアイズ 2026年8月期通期決算 Q&A に関するお知らせ

この質疑応答集は、2026年10月15日(木)に行われた 2026年8月期通期決算発表に関して、投資家の皆様よりいただいた主なご質問と回答をまとめたものです。ご理解を賜ることを目的として一部内容・表現の加筆・修正を行っております。

なお、回答内容については現時点で当社が把握しうる限りの情報をもとにしております。

詳細につきましては、次ページよりご参照ください。

本リリースに関するお問い合わせ先
株式会社トリプルアイズ
東京都港区芝浦3-4-1 グランパークタワー32F
電話：03-3526-2201
MAIL：info@3-ize.jp

Q1

ゼロフィールド社の株式譲渡の進捗状況と完了時期の見通し、また新体制への移行が売却に与える影響について教えてください。

A1

現時点におきましても、複数の相手先候補との間で、条件交渉を含めた売却に向けたプロセスを着実に進めております。相手先候補との NDA（守秘義務契約）の関係上、具体的な譲渡先や譲渡価格、完了時期の詳細につきましては公表を差し控えさせていただきますが、交渉は前向きに進捗しております。

また、2026 年 9 月 7 日付で佐藤仁氏がゼロフィールド社の代表取締役役に就任いたしました。これは売却活動の実効性をより一層高めるための施策でございます。佐藤氏は大手総合商社を経て、上場企業グループの IT 企業において代表取締役社長として事業拡大を牽引してきた経営のプロフェッショナルであり、2026 年 4 月の参画以降、営業・事業運営・組織マネジメントを強化してまいりました。その結果、マイニングマシンのサーバー運用事業から、AI 向け GPU サーバーの販売・運用をメインとする事業構造への転換が完了し、2026 年 8 月期の営業損益は前期の△577 百万円から 10 百万円の黒字へと転換、第 3 四半期・第 4 四半期の営業利益は 63 百万円（棚卸資産評価損 29 百万円控除後）となるまで収益体質が改善しております。なお、前代表取締役の平嶋遥介氏は顧問として、引き続き技術面から同社を支援しております。

このように、今回の新体制への移行は、同社の企業価値を最大化させた状態で最適なパートナーへバトンをお渡しするための前向きな体制強化であり、全株式譲渡の方針に変更はございません。条件合意に至った段階で、速やかに適時開示にてお知らせいたします。

Q2

2027 年 8 月期の連結業績予想を非開示とした理由と、正式な開示時期、ならびに参考値の達成確度について教えてください。

A2

2027 年 8 月期の連結業績予想につきましては、連結子会社であるゼロフィールド社の全株式譲渡に向けた売却活動が進捗中であり、譲渡の完了時期および譲渡価格が確定していないことから、現時点では開示を行わないことといたしました。ゼロフィールド社を含めた連結ベース、含まない継続事業ベースのいずれの予想を正式な予想として開示した場合で

も、投資家の皆様のご判断を誤らせる可能性があるかと判断したためでございます。
正式な業績予想につきましては、株式譲渡の条件が確定し、合理的な算定が可能となった時点で、速やかに開示いたします。

一方で、本業である AI ソリューション事業の成長イメージを持っていただくため、GPU サーバー事業を非継続事業に分類した場合の参考値として、売上収益 5,030 百万円（前期比 104.3%）、営業利益 190 百万円（同 119.5%）をお示ししております。本参考値は、単なるコスト削減による利益の積み上げではなく、決算賞与、営業強化に関わる投資、自動車設計 AI プロダクトの開発投資といった将来の成長に向けた投資をすべて織り込んだうえで策定したものでございます。足元の生成 AI 関連の旺盛な引き合いや商流改善の進捗を勘案いたしますと、十分に達成可能な水準であると認識しております。

Q3

AI ソリューション事業において、売上収益の伸びに対し、営業利益が前期比+19.5%と大きく伸長する計画となっている背景とメカニズムについて教えてください。

A3

売上収益の伸び（前期比 104.3%）を上回って営業利益が拡大する最大の要因は、決算説明資料でお示した「粗利を積み上げる 3 つの打ち手」による売上総利益率の改善でございます。2027 年 8 月期の参考値では、売上総利益を 1,339 百万円から 1,572 百万円（前期比 117.3%）へと拡大させる計画としております。

まず、AI インテグレーションにおきましては、下請け案件からプライム案件へのシフトや単価アップの交渉をひたむきに進めるとともに、AI 開発案件の獲得を強化してまいります。商流改善の効果は既に表れており、ビジネスパートナー粗利率は前期第 4 四半期の 15.3%から当期第 4 四半期には 18.5%へと改善しているほか、生成 AI の開発需要増を背景に、AI ラボ・コンサル売上は前期比で 2 倍以上に成長しております。これらにより、同サブセグメントの粗利は 755 百万円から 909 百万円への拡大を見込んでおります。

次に、AI プロダクトにおきましては、従来型のシステム開発から、昨今の開発需要に合わせた生成 AI や、セキュリティ要件に対応したエッジ顔認証といった高付加価値な先端開発領域へとシフトすることで、収益性の向上を図ってまいります。

さらに、エンジニアリング（BEX）におきましては、AI 案件への人員シフトや東海地区での営業活動強化を通じて、粗利を 425 百万円から 521 百万円へと拡大させる計画でございます。

【参考資料】

2026 年 8 月期通期決算説明資料

本リリースに関するお問い合わせ先

株式会社トリプルアイズ

東京都港区芝浦 3-4-1 グランパークタワー32F

電話：03-3526-2201

MAIL：info@3-ize.jp